

(11) 研修の充実

教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

実践事項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

1 教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進

- ・教員一人一人が自らの資質の向上に向けて主体的・計画的に取り組むよう、指標の趣旨、内容及び研修の方法等について、校内で共通理解を図る。
- ・自らの成長段階や職責、経験、適正等に応じて指標を活用し、更に高度な段階を目指して、校外研修、校内研修、日常的な職場内研修を推進する。

2 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

- ・自校の教育課題を明らかにし、校長の方針の下、課題解決に向けて全教職員が日常的に学び合う校内研修体制を整備し、機能させる。
- ★学校の教育課題解決のため、研究のねらいや目指す児童生徒像、内容、方法、共有方法、検証方法を明確にし、具体的な研究計画を立案する。
- ・研究内容と日常の授業とを関連付けながら、授業実践を積み重ねる。
- ・授業参観の視点を焦点化し、全教職員が主体的に参加できる研究協議を行い、明らかにした成果と課題を日常の授業実践に生かす。
- ・各種調査、アンケート等の結果分析を基に児童生徒の変容を的確に捉え、研究の成果と課題を明確にし、校内研修の内容、方法の改善を図る。

3 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実

- ・教育要領・学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、具体的な実践に結び付く研究・研修を進める。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくりや指導方法の改善、学習評価など、授業改善に資する研究・研修を進める。
- ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続が図られるよう、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを相互に関連付け、架け橋期の教育の充実を図る。

※「主体的・対話的で深い学び」の視点については、「(1)授業の充実 実践事項 3 (2)」参照

※アプローチカリキュラム（幼稚園・保育所・認定こども園）

就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラム

※スタートカリキュラム（小学校）

幼児期の育ちや学びを踏まえて、小学校の授業を中心とした学習へうまくつなげるため、小学校入学後に実施される合科的・関連的カリキュラム

※架け橋期

義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間（生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期）

4 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進

- ・児童生徒や地域の実態を的確に把握し、全教職員の協力体制の下で研究を重ね、カリキュラム
- ・マネジメントによる特色ある教育課程を編成する。
- ・家庭や地域の人々の積極的な協力を得て地域社会との連携を深め、地域の教育資源や学習環境を一層活用する。